

第 11 回 覚悟はあるか Are you ready?



植田 讓（東京理科大学 工学部電気工学科）

「十里の旅の第一歩 百里の旅の第一歩
同じ一歩でも覚悟がちがう」

これは、後藤静香の「権威」に収録されている「第一歩」という十行の詩の冒頭の言葉です。確か小学生の時だったと思いますが、担任の先生のお休みの日に校長先生が国語の授業をして下さり、そのときに習ったのがこの詩でした。子供ながらに言葉の持つ力強さにハッとしたのでしょうか、この言葉は長く記憶にとどまり、様々な場面で自身の歩みと覚悟を振り返るきっかけになってきました。ちなみに、この詩は「三笠山にのぼる～、富士山にのぼる～」と続きますので、趣味の気楽な山歩きの途中、疲れてしまったときにも、目的地を目指す覚悟を持って、無事に山を下りる覚悟を持って一歩一歩を踏み出そうと、言葉の力を借りて自らを鼓舞するのにも役立ちました。

十里、百里とくれば千里の話、「千里の道も一歩から」といいます。長い道のりを進むには一歩一歩の積み重ねが重要であり、まずは一歩目を踏み出すこと、そして歩を重ね続ける事が重要である、と解釈してみます。何のことかという、電力エネルギーシステムの脱炭素化に向けた長い道のりを、どういった心構えで進んでいけば良いか、という話です。2050年のカーボンニュートラル達成という25年以上も先のことですが、目的地さえはっきりしていれば長い道のりに立ちすくむことなく歩を進めていけるのではないかと。しかし、脱炭素化の技術選択にも様々な考え方があり、それぞれが思い描く電源構成や電力システムの絵姿は一つではなく、そして実現できる電力システムは一つしかないの、目的地が定まらない。さてどうするか。

まずは、多少は目的地が違って、最短コースでは無くても、必ず必要になると考えられる技術の普及を進めてみる。例えば、太陽光発電の普及拡大はどうでしょうか。しかし最近では景観の破壊など地域に受入れられない形での設置が問題視されるなど、課題は山積です。次の世代に何を残すのか、そのために今、自分たちはどのような選択をするのか。景

観を残すことはもちろん重要ですし、生物多様性を維持することも重要でしょう。しかし、脱炭素化が達成できなければ、景観も生物多様性も維持できない可能性がある。目の前の自然と地球規模での気候変動のスケールが違いすぎて、なかなか結論が出てきません。こんな時は急がず、議論を重ね、合意を形成し、多くの人が納得のできる形を模索する必要があるわけですが、しかし残された時間を考えると間に合うのだろうかという焦りも出てくる。どこに進むべき道があるのか。

千里眼とはいかないかも知れませんが、こんな時には国のエネルギーに関する基本計画が特に重要な役割を持ちます。我が国でも、目下、第7次エネルギー基本計画の議論が進んでいますが、それはどんな絵姿を示してくれるのでしょうか。いくつかの資料⁽¹⁾を見ると、脱炭素化の重要性に加えて、エネルギー安全保障への対応強化、エネルギー構造転換を自国の経済成長につなげる、などの言葉が見られます。つまりはS + 3Eとなるわけですが、以前は、3Eはトリレンマと考えられていたようにも思います。再生可能エネルギーの環境性は高いが経済性が低い、などの考え方です。しかし、技術の進展が進んだ今、S + 3Eの同時実現は可能です。例えば太陽光発電は最も安価な電源の一つになっており、しかも環境性も高い。ただ、残念なことに太陽電池を海外から購入しているのが現状ですので、国内生産の復活にも期待したいと思います。

さて、今回、この原稿の執筆機会をいただき、改めて言葉の持つ力を感じることができました。冒頭の詩の最後の2行を紹介して、この文章を閉じたいと思います。

「目標が その日その日を支配する」

(1) 総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会（第55回会合）資料1 など

https://www.enecho.meti.go.jp/committee/council/basic_policy_subcommittee/2024/055/